

大阪錦画の新聞紙

過日第七号 粉粹せし東京敷奇屋町合軍夫

松井と兵衛の娘まはは現在、三つ子房をまき、行方のある  
 さるを盗まざる子可愛と親の思ひの山鳥のわろの

かみの影をいふ見せぬをさうり、尋ねるとさうり

コウおまのやとらと「アイそのちやアをわで

茶屋の前の涼亭をわし神内さまのついで

娘を退利とてくさうりてぬ

言はばのまを採まじゆ

おらとわいかにやアアアア

何んりますくみせわめおあおを

おのちあまとかあ、うせとのまの若うらつておのあつて

まふおあつてい、このおあ、おて早れらア今時の人おと

おま、おあ、おとと親をよと返言、誤ふ子兵衛八泪をハラと

あや、おあ、言葉も行詰る因果の未と引連を分應あて出行



出来ぬい、勸懲の裏あうらわく  
 人畜報知百九号 再出

不始の傷垂

松井と兵衛  
 三つ子房  
 行方のある

